

| | | |
|---------|--|----------|
| 陳情第192号 | 受理年月日 | 令和6年6月6日 |
| 付託委員会 | 総務財政委員会 | |
| 件名 | 高潮災害危険区域（3m～5m未満）に建つ複合公共施設に新しい門司区役所を入れないで下さい | |
| 要旨 | <p>市が令和6年5月29日に門司生涯学習センターで開催した「市民向け事業説明会～門司港地域複合公共施設整備事業の今後の進め方について～」において、参加者から高潮災害危険区域（3m～5m未満）と新しい門司区役所に関連して、次のような意見が出た。（市ホームページより）</p> <p>「区役所は区の防災拠点です。防災拠点を高潮洪水危険箇所に造ってはいけません。これは常識です。もちろん2階に造るのも駄目です。昭和28年の水害の際は、山城屋よりこの電車通りに大石が転がりながら、濁流と一緒に門司港駅のほうに流れて行って、道路が土砂で埋まってしまったとの当時の目撃情報があります。高潮被害の後もしばらく道路が使えません。防災拠点を災害時に孤立する所にあえて造るのは非常識であり、北九州市の防災に取り組む姿勢が疑われます。能登地震の件もあり、再考すべきです。」、「ここは高潮浸水地域ですよ。都計審で専門の大学の先生が、津波が日本海から来た時はどうするのかと言った矢先に能登の地震ですよ。市は、都計審でずっと南海トラフだけだから津波の心配はない、高潮だけだから関係ないとずっと答弁してきたんですよ。都計審の先生がずっと危惧してきて能登が起こったんですよ。その時、関門海峡でも3メートル、4メートル上がるとNHKで流れて本当に心配したんですよ。28年の災害の時、区役所は避難所だったんですよ。市は、今回は避難所になるかどうかわからないとこれまでずっと答弁してきたんですよ。門司区役所は避難所にならないから、ほかの所を代替にするからとずっと答弁しているんですよ。そんな区役所ってあるんですかね。」、「なぜ津波などの浸水想定区域に建設するのですか。災害発生時に安全に避難できるのですか。」、「能登の地震を例に説明されたが、高潮浸水区域になぜ建てるのか。」、「複合公共施設は安全な高台にお願いしたいです。避難場所にもなるのですから。」、「複合公共施設の1階が浸水した</p> | |

(続 く)

ら避難できない。安全な場所に建設をお願いいたします。」、「遺構以前に高潮が来ると浸水する図書館、バリアだらけの建築、移転後の旧施設の活用などあまりにお粗末な計画であり、門司区民をばかにしている。計画の全面見直しを求める。」、「南海トラフ地震対策はどうなっているのか。複合施設は万一の場合、1階部分は沈没するのでは。」、「高潮洪水の場合を想定しているのか。救助救難機能はどうするのか。」、「高潮浸水時の対策本部、救難避難場所本部として機能するのか。」、「参加して、高潮、津波等、防災のこともあった。」、「説明を聞けば聞くほど疑問が増えてきた。」、「安全な場所に複合施設を建ててほしい（現在の予定地は適していない）。」

門司区役所の高波・津波災害対策と被災時の救急救難・避難対策は、多くの門司区民の人命に関わる問題である。「建て替えが失敗しました。すみませんでした。」で済む話ではない。

赤子、幼児、妊婦、少年少女、青年、成人、若者、子供の母親と父親、病人、身体障害者、高齢者、超高齢者、健康な者でも、あらゆる者が、何人、何十人、何百人、何千人、何万人が被害者、負傷者、病人、死者、災害弱者となるのが自然災害である。

都計審（北九州市都市計画審議会）には、2号委員（市議会議員）として田仲常郎（議長）（自民党・無所属の会）、本田忠弘（副議長）（公明党）、渡辺均（自民党・無所属の会）、渡辺徹（公明党）、白石一裕（ハートフル北九州）、山内涼成（日本共産党）の6人が就任しているが、都計審（委員26名）がこれからどのような審議、判断、建議をするのか不明である。

我々市民が最後に頼るべきは市議会である。

については、市議会が市長提案の補正予算案を否決していただきたい。